



## 令和6（2024）年度道徳教育応援チーム派遣事業

県教育委員会では道徳教育の充実を目指し、市町教育委員会との連携・協力の下、県内の学校に道徳教育応援チームを派遣しています。道徳科における教科化の趣旨を踏まえた授業改善等に向け、教師の指導力の向上を図り、児童生徒の発達の段階に応じた道徳性の確かな育成を目指す事業です。

今年度、河内教育事務所管内では、宇都宮市立平石北小学校と宇都宮市立陽西中学校からの要請を受け本事業を実施しています。1年間に5回程度、県義務教育課、河内教育事務所、宇都宮市教育委員会の指導主事3名のチームで学校を訪問し、外部講師による講話や模範授業、研究授業、授業研究会などを行っています。今回は、各学校での取組の一部をご紹介します。

### 宇都宮市立平石北小学校

#### 研究主題

自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成  
～ 対話的活動を効果的に取り入れた道徳の授業を通して～



白鷺大学の中山和彦先生には、2回来校していただき、講話と模範授業を実施していただきました。子供の問いを生かした授業の展開などについて学びました。



研究授業では、発問の工夫をしたり、「役割演技」を取り入れたりすることで、道徳的価値に対する考えを深められるよう工夫していました。



授業研究会では、授業のねらいや中心発問、考えを広げたり深めたりするための手立てなどについて活発な議論が行われていました。

### 宇都宮市立陽西中学校

#### 研究主題

感謝と思いやりの心を持ち、謙虚に学ぶ広い心をもつ生徒を育てるとともに、生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する心の育成



千葉県富津市立吉野小学校長の三浦貴子先生に講話と模範授業を実施していただきました。道徳の授業づくりのポイントや先生の実践紹介など、今後の授業に取り入れたい内容が盛りだくさんでした。



全学年でローテーション道徳の授業を公開していただきました。先生方の強みを生かし、教材の工夫やICTの活用、対話を重視した授業づくりに取り組んでいました。



授業研究会では、各学年で行ったアンケートの分析から、生徒の現状を把握し、教職員の意識や課題などを共有しました。その上で授業力向上に向け取り組んでいました。

## 今後の教育の方向性を読む

学習指導要領の全面実施から、小学校で5年、中学校で4年が経過し、各学校では授業改善に向けた不断の取組がなされているところです。そのような中、国では、「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」が設置され、現行の学習指導要領の実施状況等を踏まえながら、今後の学校教育の在り方について検討が進められています。

その有識者検討会から、9月に「論点整理」が公表されました。本論点整理では、今後の教育課程の編成・実施等に関して、今後検討を深めるべき具体的な論点等が様々な視点から示されています。

そこで今回は、本論点整理から、ほんの僅かではありますが抜粋し、学校教育の改善に向け、現在、どのような議論がなされているのか、その一部をお伝えいたします。

### 現行学習指導要領の実施上の課題（指摘されている課題）

- ・学習指導要領における記載にわかりにくい側面があることが趣旨の浸透の妨げになっているのではないか。（例：曖昧な用語、多義的な用語、誤解を招く用語）
- ・教師の多忙化や教師不足等が学習指導要領の趣旨実現を妨げている側面があるとともに、教育課程の実施に伴う負担感が大きいのではないか。

### 学習指導要領における資質・能力の枠組み

「知識及び技能」については、個別的知識及び技能と概念的知識・方略の関係性をより整理すべき。また、「学びに向かう力、人間性等」については「今の学びに向かう力なのか、その先の学びに向かう力なのか」といった視点や、さらには「学び自体に向かう力なのか、学びの先に社会に向かう力なのか」といった視点から多義的な解釈がなされており、更に整理すべき。

### 学習評価の現状と育成すべき資質・能力を踏まえた今後の対応（現状）

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「主体性」の意味が具体的に整理されていないこともあり、依然としてノート提出の頻度などの「勤勉さ」の評価に留まっている学校もある。毎回の授業で3観点全てを見取らないといけないといった誤解により、評価材料を集めることのみを目的に毎時間振り返りを書かせるなど、評価のための指導に追われるいわゆる「指導の評価化」の状況が生まれるなど、教師・子供にとって息苦しくなっている場合もある。見取り・形成的評価・総括的评价が区別されず、学習評価の全てが総括的评价（評定の対象）として行われることにより、評価の結果が学習の改善に結び付きにくいという課題も指摘されている。

ご存知の通り、「主体的に学習に取り組む態度」においては、粘り強い取組を行おうとする側面とともに、自らの学習を調整しようとする側面、いわゆる「自己調整」が重視されています。論点整理を通して、今後の教育課程や学習指導、学習評価など、これからの教育の方向性を視座高く俯瞰的に捉えることは、自身の教育実践を見直し、改善する、まさに「自己調整」に大いに役立つのではないのでしょうか。ぜひ、気になったキーワードやフレーズを入り口にして、論点整理のページをめくっていただければと思います。

なお、本論点整理は、以下のURLから全文をご覧ください。また、これまでの検討会において関係識者から発表された貴重な資料や、実際に交わされた議論の内容も議事録として見ることができますので、ぜひご覧ください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/184/index.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/184/index.html)

